

多くの渡航医療関係者がトラベラーズワクチンとしての デング熱ワクチン TAK-003 (Qdenga®) に前向きな姿勢を見せている

【概要】

- トラベラーズワクチンとして注目されているデング熱ワクチン TAK-003 (Qdenga®) に関する専門家の意見を集約するため、日本渡航医学会会員を対象に意向調査を実施しました。
- その結果、トラベラーズワクチンとしての TAK-003 について、70%以上の回答者が長期渡航者への接種を推奨する意向を示しました。また、自分自身が長期渡航する場合にも70%以上の回答者が接種する意向があると回答しました。
- 接種を勧めるか否かを判断する際に参考となる情報として、デング熱ワクチンの科学的エビデンス、流行状況に関する情報、国際的ガイドラインなどを求める意見が多くありました。
- 本研究結果より、多くの渡航医療の専門家がトラベラーズワクチンとしての TAK-003 に対して前向きな意見を持っていることが明らかとなりました。

トラベラーズワクチンとしてのTAK-003 日本の渡航医療関係者の意見と意思決定支援策へのニーズ

記述研究



2024年5月31日～6月30日



TAK-003 (Qdenga®) デング熱



渡航医療関係者の意見
 や意思決定支援策の必要
 性は明らかになって
 いない



日本渡航医学会員154名に対し、
 国内未承認のQdenga®に関する意見を調査

自分が流行地に渡航する場合の接種意向:



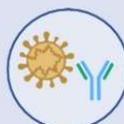
流行地への渡航者に対する推奨意向:



接種を推奨しない主な理由:



有効性



Antibody-dependent enhancementの懸念



副反応



推奨に関する意思決定に必要な情報・資料

- ・有効性や安全性に関する科学的エビデンス
- ・デング熱流行状況に関する情報
- ・国際的なガイドライン

東京医科大学公衆衛生学分野の福西厚子・町田征己らは、日本の渡航医学関係者による学術団体である日本渡航医学会の会員を対象に、デング熱ワクチン TAK-003 (Qdenga®) に関する意向調査を実施しました。その研究成果が2025年4月7日に国際医学雑誌 Human Vaccines & Immunotherapeutics で発表されました。

【研究内容の要約】

背景: デング熱の流行が世界的に拡大する中、予防手段としてワクチンへの関心が高まっています。デング熱は急な高熱で発症し、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などの症状が現れ、時として命にかかわる病気です。TAK-003 (Qdenga®) は、CYD-TDV (Dengvaxia®) に次いで承認された世界で2番目のデング熱ワクチンです。TAK-003 は現在、流行国を中心に接種が進められており、非流行国においてもトラベラーズワクチンとしての接種が検討されています。日本では未承認ですが、東南アジアへの渡航者が多いことから、実際に臨床現場では渡航者からの相談が増えています。しかし、現時点では世界的に統一された接種基準が示されておらず、推奨に関する判断に必要な情報が十分に整っていません。こうした状況においては、エビデンスレベルは高くないものの、専門家の意見を集約・整理することが臨床現場における対応や判断の助けとなる可能性があります。また、接種を推奨するかどうかを判断する際に役立つ情報や資料といった、意思決定支援ツールへのニーズを把握することも重要です。そこで本研究は、日本の渡航医療関係者を対象に、TAK-003 に関する意見および意思決定支援策に対するニーズを明らかにすることを目的としました。

方法: 2024年5月～6月に、日本渡航医学会のメール会員を対象としたオンラインアンケートを実施しました。調査では、TAK-003 について、①自分自身が流行地域に渡航する際の接種意向、および②流行地域への渡航者に対する推奨意向を、短期渡航(1か月未満)・長期渡航(1か月以上)に分けて尋ね、意向がある者の割合をそれぞれ算出しました。また、推奨する意向がないと回答した者には、その理由についても併せて尋ねました。さらに、推奨に関する意思決定を行う際に参考となる情報や資料について、複数選択式で回答を求め、選択肢ごとに割合を算出しました。

結果: 合計154名が調査に回答し、①自身の接種意向がある者の割合は短期渡航で55.2%、長期渡航で75.3%、②渡航者への推奨意向がある者の割合は短期渡航で52.6%、長期渡航で74.7%でした。接種を推奨しない理由としては、副反応や有効性、抗体依存性感染増強(ADE)への懸念が多く挙げられました。また、意思決定をする際に必要な情報や資料については、デング熱ワクチンの科学的エビデンス(88.3%)、流行状況に関する情報(88.3%)、国際的ガイドライン(81.2%)に対するニーズが特に高いことがわかりました。

結論: 本研究の結果、多くの渡航医療関係者がトラベラーズワクチンとしてのTAK-003に対して前向きな意見を持っていることが明らかとなりました。また、意思決定を支援するための情報や資料に対する高いニーズが存在することも示されました。

【論文情報】

掲載紙：Human Vaccines & Immunotherapeutics

論文名：Travel medicine providers' opinions on the dengue vaccine TAK-003 as a travel vaccine and the need for decision-support information and materials before its launch in Japan

著者名：福西 厚子、町田 征己、福島 慎二、井上 茂

DOI：10.1080/21645515.2025.2483560（査読済み）

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 町田 征己、福西 厚子、井上 茂

E-mail: tmuphic.2020@gmail.com